

斎木保久・桶川修* ナヨナヨワスレナグサについて

Yasuhisa SAIKI & Osamu OKEGAWA* : On *Myosotis
baltica* SAM. Found Newly in Japan.

静岡県 の浮島原は駿河湾の北側にあり愛鷹山塊の南に位する湿地で、昔は一面のアシの原であったが、現在は開拓が進み水田が多いが今なお暖帯の低湿原野として、日本でも数少ない自然景観を保持した場所が少からずある。近年は著しい工場の進出と治水工事や埋立てのため、且つ工場廃液の逆流などのため、これらの残り少い貴重な自然も漸次失われようとしている。

この原野は静岡県でも特筆すべき湿地植物の宝庫で、これまで多くの学者や採集家の努力により、ミズバショウ、クサレダマ、ノウルシ、ホソバウナギツカミ、ヒメナミキ、マルバオモダカ、ヒンジモ、ヒメミクリ、ミズニラ、ヒキノカサなどの生育が知られており、さらに静岡県に未記録であったサワトラノオ *Lysimachia leucantha* MIQ. を産し、テツホシダ *Cyclosorus gongyloides* LINK. の北限産地でもある。

この地域にムラサキ科のキウリグサに似た小草が野生していることを桶川は数年前に見出し、形態からこの植物がキウリグサ属 *Trigonotis* ではなくワスレナグサ属 *Myosotis* に属するものであることを知ったが、適当な文献が手元になく、帰化植物であろうとの思惑から放置してあった。

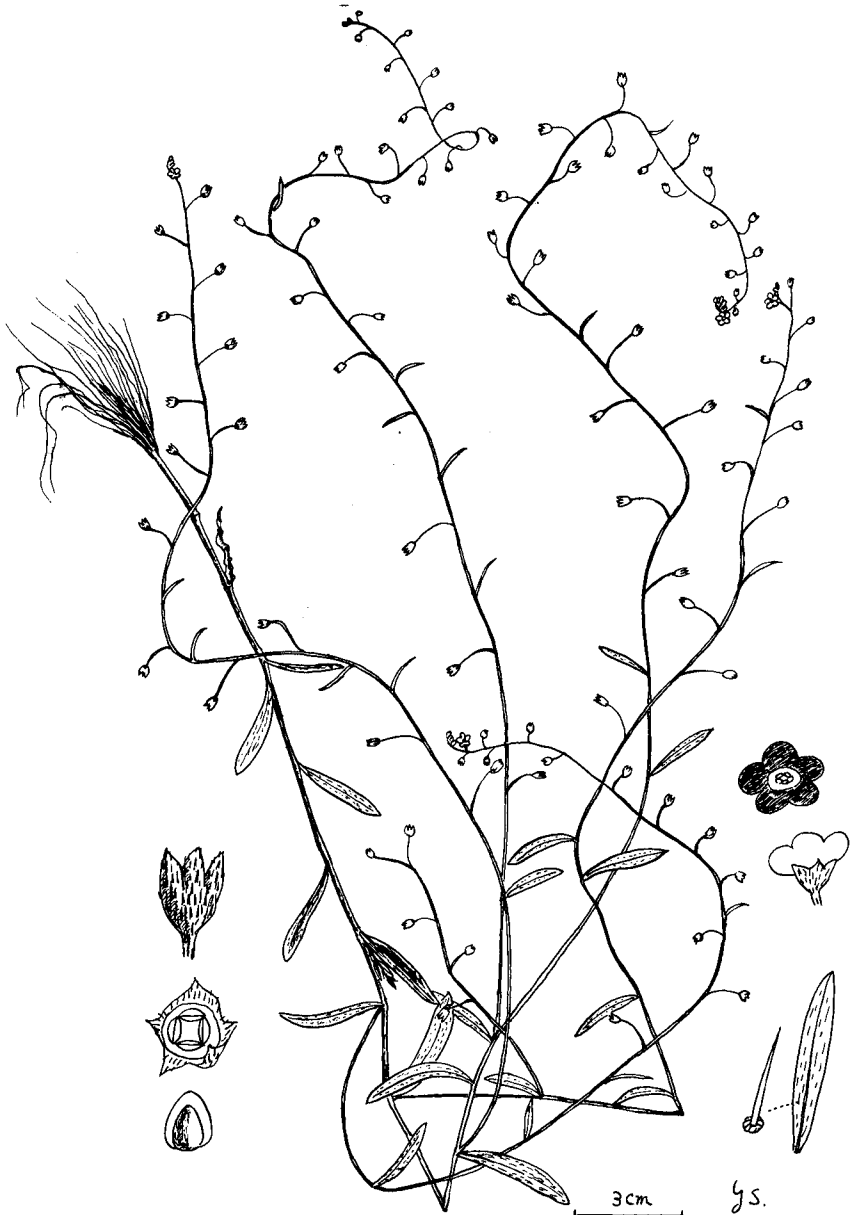
今回、この植物を現地において調査したところ、この植物は浮島原の水田地帯ではなく本来の自然植生とみられるアシを優先種とする場所に下草として生えており、在来の野生植物とみられるヒメナミキ、クサレダマ、チゴザサ、コシロネ、ノウルシなどと共同社会を構成しており、帰化植物の生態とは考え難い。附近にも自然の破壊されたところにはシマズメノヒエやオオアワダチソウが生えてはいるが、この植生とは著しく異っている。故に著者等は、この植物を日本産の種類と判定した。

次に、この植物の学名であるが、この度入手したヨーロッパなどの各国の植物図鑑により比較検討したところ、²⁾*Myosotis baltica* SAM. と特徴が一致するので、この植物はこの学名に当るものと考察し、新たに和名としてナヨナヨワスレナグサと命名することにした。この植物の性状と同定に要した経緯を述べ、新たに日本の植物フロラに加うべき種類として報告する。

***Myosotis baltica* SAM.**

(Syn. *Myosotis laxa* LEHM. subsp. *baltica* HYL.) 和名 ナヨナヨワスレナグサ
浮島原産のもの形態は次のごとくである。

湿地に生ずる多年草。地下部はヒゲ根状の細根を叢生する。茎は花期において径1mm内外、下部で2mm、高さ30cm位で直立し、緑色を呈しており白色の上向きの圧伏した



直毛が生えている。果期のは漸次伸長し、葉腋より花序を分枝し、曲りくねりアシの茎によりかかる様な形態の茎となり、大きいものでは全長70cmに達するものがある。葉は広線形で巾2～5mm、長さ1.5～3cmで少々鈍頭、葉柄はなく基部は細まっており、両

面に前述の形質の白色毛が生えており、殊に下面に多いが、個体によっては毛の極めて少ないものもある。

花冠は極めて小さく径3mm位、青色で中央の喉部のみ黄色で、花冠内部には5本の雄蕊と4室の子房をもち花柱1個よりなる雌蕊がある。萼はほぼ中央まで5裂し、裂片は鋭頭または鈍頭で、外面に前述の特徴をもつ白色毛がある。花冠は蕾時桃色で開花にともない青色となる。花序はサソリの尾の形の巻繖花序であるが、果時には伸長して総状花序に似た形状となる。花梗は花時は2~5mmであり基部に苞はないが、果時には伸長して1cm位となる。また花序も伸長するにつれ線形葉を時に混じり、果時には長さ20~30cmとなる。果実は宿存萼に包まれる四分果で、宿存萼の長さは2~3mmである。分果は長さ1mmの扁平二面体で卵形を呈し、全体に光沢があり未熟なとき緑色で、成熟すると黒色となる。

花期 5月~6月、産地 駿河 浮島原； ノルウェー、スウェーデン、デンマーク

次に、近縁種との区別を述べる。

ノハラムラサキ *Myosotis arvensis* HILL. は全体の形状が似ているが、萼の毛は釣針状である。分布；ヨーロッパ全土、日本では千葉県に帰化。

Myosotis caespitosa K. F. SCHUTZ この種は毛の性質、湿地性、茎葉の形状など酷似しているが、花が稍々大きく径5mm内外である。⁴⁾ 分布；イギリス、ノルウェー、スウェーデン、オランダ

Myosotis laxa LEHM. この種も湿地性⁷⁾であり、花の径、全体の形状極めて酷似しているが、毛の基部に白色板状体があるので異なる。分布；ヨーロッパ、シベリア、中国東北地方(満州)、北アメリカ

Myosotis ramoissima ROCHEL この種は全体の形状に差異を認め難いが、乾燥地上に生育することで異なる。⁴⁾ 分布；イギリス、オランダ

以上の近縁種との差異により、記載の一致をみた *Myosotis baltica* SAM. と本植物を同定した。しかるに本種を *Myosotis baltica* SAM. とすると、分布が著しく離れており、帰化植物とせず自生植物としては分布に説明が困難である。しかるに、上記の近縁種は、いずれも毛の様な些細な特徴で分けられており、それぞれを種として見做すには余りにも近縁すぎる様にも見受けられ、種を大きく扱う見解もあり得る。例えば *Myosotis laxa* LEHM, *Myosotis baltica* SAM. および *Myosotis caespitosa* K. F. SCHUTZ を同一視⁵⁾する見解もある。故に、これらの種の整理統合を考慮し、敢えて不連続分布を知りつつ上記学名とした。しかし *Myosotis laxa* LEHM. の学名を用いず *Myosotis baltica* SAM. を用いた理由は、上記識別理由により異点が認められるので確実に特徴が一致するものに同定したのである。

また本種は、本邦において始めて見出されたのであるが、花が小さく、植物も小形であり特に梅雨期に草に被れた所に開花し、目立たないので採集家の眼を逃れてきたものと考えられる。また適生地が開発により減小しているので浮島原と似た原生状態の湿地に今後見出されるものと考えられるので、同好の士に注意を願いたい。

なお本題とは直接の関係はないが、園芸植物のワスレナグサ（牧野：ワスレナグサ）の学名に対して久内⁸⁾は *Myosotis arvensis* HILL. を当てているが、これは本属植物の分類において安定した形質とみられる花の径を無視して誤ったものであり、*Myosotis alpestris* F. W. SCHMIDT を当てる杉本⁹⁾の見解が妥当であろう。

本稿を草するにあたり、貴重な書物を恵与いただいた M. WELLENDORF 教授に厚く深謝します。

参 考 文 献

- 1) 杉本順一：静岡県植物誌（静岡県生物研究会）（1967）
- 2) J. LID：“Norsk og Svensk Flora” Det Norske Samlaget, Oslo (1963), 564
- 3) S. J. van OOSTSTROOM：“Flora van Nederland” Wolters-Noordhoff NV, Groningen (1970), 484
- 4) W. K. MARTIN：“The Concise British Flora in Colour” Ebury Press & M. Joseph (1969), pl. 60
- 5) R. JØRGENSEN：“Den danske flora” Gyldendal (1961), 422
- 6) R. T. PETERSON, M. MCKENNEY：“A Field Guide to Wildflowers of N. E. and N. Central N. America” H. Mifflin Co. Boston (1968), 334
- 7) 中国科学院林業土壤研究所：“東北植物検索表”，科学出版社，北京（1959），306
- 8) 久内清孝：植研 46, 377 (1971)
- 9) 杉本順一：“日本草本植物総検索誌 双子葉篇”（六月社）（1965），459

S u m m a r y

A native Borraginaceae plant was newly found in central Japan. This herb was assigned as *Myosotis ballica* SAM., distributing in northern Europe from the observation of its outernal appearances. In spite of remote isolation of its distribution we thought that it is native in Japan, because its habitual circumstance seems to be natural state consisted of many Japanese wild plants. and its allied several species, distinguished by minute characters and united according to scholar's opinions, distribute widely in northern hemisphere.